

## 会 議 記 録 (1)

会議名称	第2回北本市高齢者福祉計画2024・第9期介護保険事業計画策定委員会
開会及び閉会日時	令和5年8月30日(水) 13時30分から14時30分
開催場所	北本市文化センター 第2研修室
議長氏名	中村 聡明
出席委員(者)氏名	鈴木 洋行 遠井 美智子 清宮 尚也 吉岡 敬太 近藤 洋子 中村 聡明 若山 銀一郎 田中 宏幸 小林 美雪 佐藤 佐 奥山 美穂 新井 めぐみ 関口 明
欠席委員(者)氏名	川島 裕代 小川 晃
説明者の職氏名	健康推進部 高齢介護課長 佐々木 由美子 高齢者福祉担当 主任 富田 侑花 介護担当 主幹 山本 理花
事務局職員職氏名	高齢介護課長 佐々木 由美子 高齢者福祉担当 主任 富田 侑花 介護担当主幹 山本 理花 主任 高橋 美穂
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 議 題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 北本市高齢者福祉計画2024・第9期介護保険事業計画(以下、計画)の重点課題について</li> <li>(2) 計画における施策と事業について</li> <li>(3) 計画における介護保険事業量の暫定見込みについて</li> <li>(4) その他</li> </ol> </li> <li>4 閉 会</li> </ol>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 計画第1部素案(資料1)</li> <li>・ 第9期介護保険事業(支援)計画の基本指針・記載を充実する事項(参考資料1-1)</li> <li>・ 第5節本市の現状から見えてきた重点課題(参考資料1-2)</li> <li>・ 第1回北本市高齢者福祉計画2024・第9期介護保険事業計画策定委員会意見一覧(参考資料1-3)</li> <li>・ 施策体系(案)と各施策を展開する上での基本的考え方(資料2)</li> <li>・ 計画第2部サンプル(参考資料2)</li> <li>・ 計画第3部素案(資料3)</li> </ul> <p>北本市高齢者福祉計画2024・第9期介護保険事業計画策定委員会委員名簿</p>



会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>くれるとより利用しやすくなる。閉じこもりや介護予防にもつながり、健康寿命の延びにもつながるのではないのでしょうか。</p>
	<p>デマンドバスのご利用方法については、様々なご意見をいただいています。乗りの介助は規定でできないと記憶していますが、いただいたご意見は所管課に伝えさせていただきます。</p>
委員長	<p>たしか、責任の問題で運転手がどこまでやっていいのかの制約があるかと思えます。やったことによって支障が出た事例もあります。補助者を同乗させ、歩行器を積むこと等を運転手の業務に含める等工夫できれば良いのではないのでしょうか。</p>
	<p>他にはいかがでしょうか。</p>
新井委員	<p>デマンドバスについては、近所の方からも聞いている。時間が合わない。行けたけれど帰れない。日本では少ないが、ウーバーのようなここからここまで、この時間というのが海外では主流となっている。親の介護をするためにヘルパーの資格を取った人が多い。将来的に、知識があって、お手伝いしたい方をマッチングするアプリがあれば、高齢者の方がサークル等に行けるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>ヘルパーのマッチングができれば良いという話だったと思いますが、社協ではどうでしょうか。</p>
鈴木委員	<p>他市で行っていることですが、社協で言う家事援助サービスを主に送迎を組み合わせるサービスがある。送迎部分では料金はいただかない。既存のサービスで規定の料金をいただく。何度か市と協議したが、うまく形にならない。継続して協議していきます。デイサービスの車両の空き時間にボランティアでの移送も話には出て</p>

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	います。
奥山委員	社協で行っている福祉車両サービスではできないか。
鈴木委員	福祉移送サービスは縛りがきつい所があり、近隣（鴻巣、北本、伊奈、上尾）しか出られない。車両も1台。車両の貸出については、運転手を自分で確保することとなる。高齢者にとっては運転者の確保が難しい。
奥山委員	運転手はボランティアで配置していたかと。
鈴木委員	それは福祉移送サービスの部分。市の委託とはまた別のものになります。
奥山委員	その辺をいろいろ組み合わせて、市と社協が別だということではなく、デマンドバスだけではなく、ここに行ったらお金がかかるけど使えるという情報は一般に流していくべき。情報交換をいっぱいして、情報発信をもっとしていただくといいのではないのでしょうか。
委員長	他に意見・質問等ありますか。
吉岡委員	独居で亡くなった方に兄弟がいますが、関わりがなく、関係が悪い。連絡をとったが、関わりたくないのので市役所に相談してくれと対応に苦慮したケースがあります。 団地の方で、団地の片づけや支払いに困りました。団地のことはボランティアやURに頼んでなんとかかなりそう。家族はいるが、支援をしたくないというというケースが今後増えてくると思います。柔軟なサービスや支援があるとケアマネジャーも助かります。

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	独居の方が多いと認識しています。本計画でも検討していきます。
委員長	例えば、独居の人の相談窓口があるといいのかもしれませんが。身寄りが無く、独居の人だけでは決められないことも多いですし、誰がどう決めていくかが難しいことかと思えます。親戚がいれば連絡をとり相談できますが、本人の理解力が落ちていくとコミュニケーションが取りづらいケースが増えています。介護、福祉、医療をつなげていくことが難しい状況かと思えます。
事務局	判断能力を支援する点で、成年後見を充実させていかないといけないかと考えています。
委員長	介護予防で認知症のことがよく言われていますが、健診も介護にならないためには必要かと思えます。北本市は骨粗鬆症健診が未実施で医師会からも申し入れています。未達成です。他市の事例がある中で、骨粗鬆症健診をやっていないことは、介護予防に取り組んでないと言われてしまう懸念があります。骨粗鬆症で運動器の力が落ち、転んだり、骨折したり、介護になる事例がありますが、骨折を繰り返して骨折することで余命が落ちていきます。費用面の課題があるかと思えますが、予防事業として市に要望したいと思えます。 他に意見・質問等ありますか。
吉岡委員	健康診断で認知症の検査ができると早期の対応ができるのではないのでしょうか。
委員長	財源の関係で諸健診が先送りになっているかと思えます。
近藤委員	認知症がある程度進んでから、どうしましょうかとなる。基本健診の中にセットすると取組みが必要な方がスクリーニングできる。これから必要になると現場で感

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項	
委員長	じています。	
	私も同様に感じています。健診事業の取組を検討した方がよいかと思ひます。健診受診率は毎年の報告を見ても変わっていない状況かと見受けまひます。介護予防・重度化防止には、受診が大切だと伝える必要があります。	
	小林委員	北本、桶川、伊奈は受診率が県内で5本の指に入ります。桶川市では健診の時に認知症のチェックリストを行ってまひます。認知症支援チームがあり、引っかかった人に対して伺ってまひます。お金がかかることかもしれないが、受診率が高いだけに、タイアップ出来ると思ひます。
デマンドバスについて、桶川市は職員が1人～2人かかりきりで配車サービスをしてまひます。軌道に乗るまでは大変だと思ひます。		
委員長		将来のどこにお金をかけるかが大事です。福祉・医療に力を入れるのであれば、他の予算を回してつけるべきではないでしょうか。費用の問題ならば対象を絞って健診を実施するなどの選択肢もあひます。予防事業の最初の段階でやるのは健診であり、認知症が進んでは戻せません。健診をやむをえず実施しないならば、周りが気付ける体制づくりが必要かと思ひれます。
	清宮委員	介護人材の確保が重点課題に掲載されるのはありがたい。1番難しい課題だが、行政の方だけで行うのは難しいと思うので、現場と行政で組んで北本独自の何か新しいことをやっていかないと、上尾や鴻巣など大きい市に挟まれているので、どうしても人材が集まらない。独自で確保して、育てていくことが必要と思ひれます。北本で働くことに魅力を感じてもらえる取組が定着には必要。そういうことをやりたい団体や事業所があれば、行政からの後押しがあるとありがたい。

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員長	<p>介護福祉の担い手を若い人材で集めることが重要です。介護福祉を中心とした若い人達が働く場所があることを北本市から発信すると良いのかもしれませんが。北本に住もうという若い世代に対して、広報と組んで人を集める方策を考えると良いのではないのでしょうか。</p> <p>他に意見・質問等ありますか。</p> <p>特にないようですので、(1)北本市高齢者福祉計画2024・第9期介護保険事業計画（以下、計画）の重点課題については以上とします。続きまして、(2)計画における施策と事業について、事務局の説明を求めます。</p>
事務局	<p>【資料2に基づき説明】</p>
委員長	<p>このことについて質問等ありますか。</p>
吉岡委員	<p>転倒に対する不安があるという方が多い。これについて、何か取組は考えていますか。</p>
事務局	<p>転倒不安に対して効果的な取組があるか今後検討していきます。</p>
奥山委員	<p>施策2、現状と課題に「住民同士のつながりが弱いこと」とありますが、独居老人や認知症の方に対して関わっている民生委員が多い。独居の方にまわりの住民の方が料理を作っていたり、声を掛けたりする現状はあるが、包括の方に相談したところそれは止めてくれと言われました。認知症の方や独居だといつ食べるかわからないので、腐ったものを食べるとまずい。住民は気にはしている状況で手の出し方がわからない。どういう方向でコミュニティとつながりを作るべきかを市に考えていただきたい。支援を必要とする人に、市の肩書がないとドアを開けてもらえな</p>

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	い。
事務局	近隣住民とその方との関係性もあり、家庭の状況も違うので、個々のケースに応じて、地域包括支援センターと連携しながら、支援方法を探っていきます。
委員長	こういうケースではこうつながった等、事例のような形で示せば地域の方もつながりやすいかもしれないですね。
清宮委員	施策2、今後の重点取組に「通いの場の拡充」とありますが、高齢化が進んでおり、維持が大変と聞きます。既存の通いの場を続けていくためのマネジメントのようなサポートも取組に入れると通いの場も増えるのかもしれないですね。
委員長	他に質問等ありますか。 特にないようですので、(2)計画における施策と事業については以上とします。続きまして、(3)計画における介護保険事業量の暫定見込みについて、事務局の説明を求めます。
事務局	【資料3に基づき説明】
委員長	このことについて質問・意見等ありますか。
近藤委員	介護認定の調査に遅れが出ている。がん末期の方の認定について、数年前は1週間くらいで調査をしていたが、今は1か月ほどかかる。調査が入らないと使ったサービスが実費になってしまう。そうすると利用をやめておくという話になる方もいる。せめてがん末期の方は特例の対応とならないか。今よりも早く結果が出た

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員長	ら、せめて調査が入ればと思います。
	主治医意見書は申請してからすぐ担当医に依頼が届きます。診察後にすぐ書くこととなりますが、多くは受診間隔があいていることもあるので、受診後に作成されます。調査に関しては、どのような状況ですか。
	事務局
委員長	
事務局	そのようになっております。
奥山委員	介護認定調査員が足りていないではありませんか。
	委員長
事務局	申請が増えたことで、今年度1名増員しましたが、追いついていないのが現状です。
副委員長	どこも人材不足でケアマネジャーがいない。資格を取っても、就く人がいないので、市だけでなく施設も四苦八苦している。資格を取った人たちに仕事に就いていただくことが大事。重点課題に関わってくるのかと思います。

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>介護認定調査員も募集をかけていますが、介護認定調査員も人材不足の状況です。市の予算を確保していますが、介護認定調査員につきましてもケアマネジャー同様いない状況です。周知へのご協力をお願いします。</p>
委員長	<p>他に質問等ありますか。</p> <p>ないようですので、(3)計画における介護保険事業量の暫定見込みについては以上とします。続きまして、(4)その他について、事務局の説明を求めます。</p>
事務局	<p>【次回日程調整について説明】</p> <p>本日の議題は以上で終了とします。進行を事務局に戻します。</p> <p><b>4 閉会</b></p>